

# 親子遊びの会

宇都宮共和大学 子ども生活学部



# 発表の流れ・目次

1. 親子遊びの会の意義と目的
2. 親子遊びの会の活動と2024年度の活動方針
3. 本事業の取り組み
4. これまでの活動報告
5. 気づきおよび今後の課題

# 親子遊びの会とは

- ▶参加者は、**地域の子育て家庭**であり、子どもの年齢は主に0歳～6歳としている。
- ▶活動は、親子で過ごす時間、保護者と教員の懇談、子どもの遊びの時間で構成される。
- ▶学生は、**自主的に参加している1年生～4年生**である。
- ▶学生は、親子で過ごす時間には活動のテーマを設け、**活動の計画と準備、当日の運営、遊びの支援**を行う。

# 親子遊びの会の意義と目的



子育て支援  
研究センター

## 親子遊びの会

子どもの遊びの支援  
親子関係の支援  
子ども・家族同士の繋がり  
作り支援

教員のサポートのもと、学生スタッフが主体的に運営に携わり、子どもと子どもと保護者への関与も経験できることで、学生の保育実践力やコミュニケーション能力などの養成に繋げることが可能

# 昨年までの活動例

親子運動遊び

ぐりとぐらのおひっこし

とちぎ多胎ネットと共同研修

お正月遊び

# 2024年度の活動方針

- 2024年度は、新たな活動目標を『地域で繋がる新しい出会い』をテーマに、地域の子育て支援団体・サークルなどとも連携し、地域の子育て支援ニーズを掘り起こしつつ、本学が地域の子育て支援の拠点のひとつとして役割機能を充実させることを目指す。
- 地域連携を通して新たなネットワークを構築し、地域との関係を強化することで、栃木県の「笑顔輝く子ども・子育て支援プロジェクト」の一助になるものと期待できる。

# 2024年度の活動計画

- 1 7/6 親子イベント「七夕の会」
- 2 8/24 親子遊びの会 特別研修  
「保護者 支援について」
- 3 11/9 親子イベント  
「親子フィットネス」
- 4 12/15 親子イベント  
「お正月遊び」

# 2024年度前半の活動実績

1. 7月 七夕の会

2. 8月 親子遊びの会

特別研修「保護者支援について」



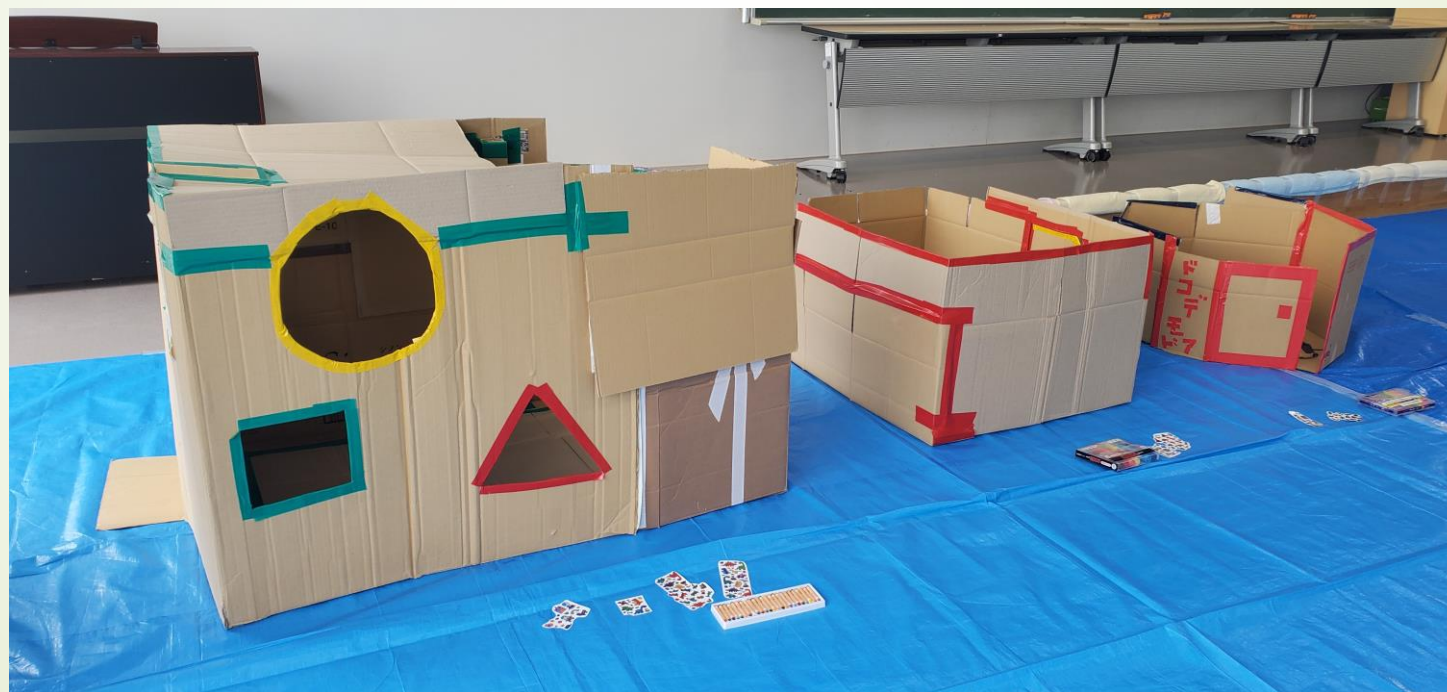
**1. 7月6日**

**「七夕の会」実施**



## 七夕の会① 前日までの準備

昼休みや放課後に計画を立案したり制作物を作りました



## 七夕の会② 魚釣りコーナー



## 七夕の会③ 積み重ねて遊ぶ

ダンボールや紙コップ等、日常にある物をたくさん使って遊ぼう！



## 七夕の会④ お絵描きコーナー

大きな紙に  
思いっきり絵を描こう！

ダンボールの家の中に  
好きな絵を描こう！



## 七夕の会⑤ 短冊作り

短冊に願い事を書いて、笹に吊るそう！



## 2. 8月 研修会

学生が地域連携活動を行う中で、保護者とどのように交流することが重要であるかを学ぶ。

# 親子遊びの会 特別研修

## テーマ『保護者支援について』

8月24日（土）

保護者との関係性の築き方、保護者支援の実践例、保護者からの相談への対応等について具体的な経験からお話いただく。



# 親子遊びの会 特別研修

## テーマ『保護者支援について』

- 地域連携活動では子どもとの関わりだけでなく、保護者との関わりも重要であり、保護者と接する際には、保護者の話に共感し、寄り添うことが必要であることを学んだ。
- 親子遊びの会での気づきを保護者や子どもたちにフィードバックすることも重要である。

- ・ 保護者との関係に不安を感じていたが、研修を通じて保護者の視点を理解することができ、不安が軽減された。研修で学んだことを、今後の親子遊びの会で活かし、実践的な経験を積み重ねていきたい。
- ・ 「保護者とのより良い関係性」について学ぶことで、子どもと保護者それぞれを尊重し、子どもの成長を共に共有・共感することの重要性について学ぶことができた。

# 2024年度前半までの活動からの気づき

1. 地域、子育て支援の団体やサークルと連携を広げることで、新たな子育て支援や保護者支援のニーズを知ることができる。保育者としても、個々の家庭の支援人数を知り、個々に合わせた支援方法を考えていくことが求められていると学べた。
2. 遊び活動を企画し、実践していく中で、親同士の交流の機会となり、親子の関わりを広げることができる効果が得られることに気づいた。
3. この活動を通して、子どもの姿に合わせて環境構成を新たに創造する力や活動を実際に行っていく中で、新たな可能性や課題を見つけ次の活動に生かす力、保護者の思いを理解し、支援方法を考える力などが求められていることに気づいた。

# 今後の課題

1. 地域の親子に寄り添った実践が行えるよう、子育てサークルとの連携を継続し、家庭支援のニーズに合った機会を提供する。
2. 親子や子ども同士、親同士の交流の機会を増やしていただけるような活動の開催を行い、その中から学生同士の学び合いを深めていきたい。
3. 学生の中でも他学年と共に、協力することで思いを1つに企画を考えていくことが求められている。

ご清聴ありがとうございました。

宇都宮共和大学 親子遊びの会